

乾癬・白斑に朗報

“紫外線治療器” が入りました

皮膚科部長 鳥居秀嗣

カットするかが重要ということになります。

日焼け止めローションなどに SPF や PA という表示がされているのをご存知でしょうか。これらはそれぞれ、UVB と UVA をどれだけカットするかという指標で、数字や+の数が多いほど相対的に効果が強いことになります。ただ、UVB と違い UVA は季節や天気にあまり関係なく一定量降り注いでいるものなので、一時的な防御でなんとかなるものではなさそうです。

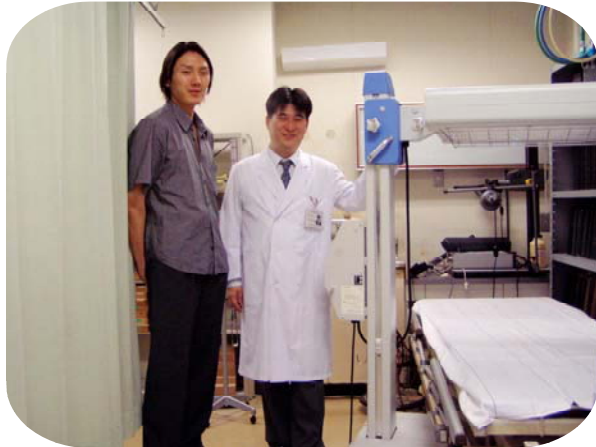
でも、紫外線は皮膚病の
治療には大きな武器

こう言うと紫外線というのは、皮膚にとって百害あって一利なしと感じられるかも知れませんが、決してそうではありません。実はさまざまな皮膚病に対して、紫外線が治療に使われています。皮膚が赤くなってカサカサしてくる乾癬という病気や皮膚の一部が白くなってしまう白斑（いわゆる「しろなまず」）という皮膚病などでは紫外線を当てることによって軽快することが知られています。

当病院では無駄な日焼けが少なく、治療効果の高い波長のみを出す紫外線照射器を使って、これらの皮膚病の治療をしていますので、何か少しでも気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。皮膚の健康と美容のために、紫外線と上手に付き合ってみましょう。



紫外線照射器



鳥居先生（右）と桜井先生（左）

今年も夏になり厳しい暑さが続いています。夏といえば特に女性にとって暑さとともに気になるのが紫外線。今回は皮膚と紫外線についてのお話をさせていただきます。

我々は日常的に太陽から来る紫外線を浴びているわけですが、地表に届く紫外線には波長の長い A 波（UVA）と短い B 波（UVB）というものに分けられます。そして UVA は皮膚の深いところまで到達する一方、UVB はより浅いところまでしか届きません。いわゆる日焼けや皮膚癌を引き起こすとされている紫外線は主に UVB の方です。

“しわ”をつくるUVA
“しみ”をつくるUVB

女性が（最近男性も？）最も気にする「しみ」と「しわ」に関してごく大雑把に言えば、「しみ」は皮膚の浅いところにある色素細胞という細胞の活性化によってできるものなので、UVB がその主役を演じます。一方「しわ」というのは、皮膚の少し深いところにあるコラーゲンや弾性線維へのダメージにより引き起こされるものなので、これを防ぐためには UVA を如何に